

日時 | 平成 24 年 1 月 28 日 (土) 12:30 ~ 13:30

場所 | 第 8 会場 (名古屋国際会議場 2 号館 3F 会議室 234)

# Simple..., and Stable! III

座長

東京医科大学 名誉教授

臼井 正彦 先生

演者

1

## 最新の眼内レンズ選択法

慶應義塾大学医学部 眼科学教室 准教授

根岸 一乃 先生

演者

2

## 難症例に対する 眼内レンズ挿入戦略と術後経過

東京大学大学院医学系研究科 外科学専攻(眼科学) 講師

永原 幸 先生

Closing Remarks

## ベテラン術者以外にも使いやすい 眼内レンズ

東京医科大学 名誉教授

臼井 正彦 先生



1 2 3  
one two three

Avansee

# Simple..., and Stable! III

## 最新の眼内レンズ選択法

慶應義塾大学医学部 眼科学教室 准教授 **根岸 一乃**先生

近年の白内障手術は、小切開とフォールダブル眼内レンズ (IOL) による超音波水晶体乳化吸引術がゴールドスタンダードであり、フォールダブル IOL の主流はアクリル IOL である。現在臨床使用可能なアクリル IOL の種類は非常に多いが、この中から IOL を選択する際には、操作上の安全性、長期安定性、光学特性などが重要なポイントとなる。

本セミナーでは、現状での眼内レンズ選択のポイントについて再考し、アバンシィの臨床的有用性について検討する。

### 略歴

- 1988年 慶應義塾大学医学部卒業・同眼科学教室入局
- 1995年 国立埼玉病院眼科 医長
- 1998年 東京電力病院眼科 科長
- 1999年 慶應義塾大学眼科学教室 講師 (兼任)
- 2001年 慶應義塾大学眼科学教室 専任講師
- 2007年 慶應義塾大学眼科学教室 准教授
- 現在に至る

## 難症例に対する 眼内レンズ挿入戦略と術後経過

東京大学大学院医学系研究科 外科学専攻(眼科学) 講師 **永原 幸**先生

フォールダブル眼内レンズの開発によって、小切開による侵襲の少ない白内障手術が可能になり、さらに着色、非球面、多焦点、乱視矯正など付加価値がついたことにより、QOL (quality of life) に応じた眼内レンズの選択ができるようになったが、難症例においては術後の眼内レンズの偏位、眼内レンズによる緑内障などが生じ、治療に難渋することがある。難症例に挿入する眼内レンズは簡便な操作性、術後の安定性が求められ、術後の経過に大きく影響する。眼内レンズに伴う術後合併症を防ぐには、合併症に応じた眼内レンズの選択と挿入戦略が重要になる。

本講演では難症例に対する眼内レンズの選択、挿入戦略、術後経過について解説する。

### 略歴

- 1990年 近畿大学医学部卒業  
東京大学医学部眼科学教室入局
- 1991年 武蔵野赤十字病院眼科
- 1994年 東京大学医学部附属病院分院眼科
- 1996年 大蔵省印刷局東京病院眼科
- 1997年 東京大学医学部附属病院眼科
- 1999年 東京大学医学博士
- 2002年 東京大学医学部眼科 講師
- 現在に至る